

新年明けまして
おめでとうございます。
本年も明るく元気に頑張りましょう。

まめってえ鬼無里 今後のスケジュール

- ・ 2/19(日)
きなさごこちプロジェクト
食文化グループによる
「食の文化祭・冬」
- ・ 2月の定例会 8日・22日

きなさごこちプロジェクト 自然エネルギーグループ

「木質ボイラー現地視察」に行く

去る十二月十五日、中野市にある温泉施設「ばんぼの湯」にボイラー設備の視察に行ってきました。今回は、特産品のえのきだけの栽培の際に出る廃棄物が粉を、ベース版ほどの大きさに圧縮し乾燥した物をボイラーで燃やし、シャワー用の水の加温に利用していました。ボイラーは国産でオガ粉ペレットは人の手によって一日に何度か温度を見ながら追加するということでした。今後、中野市内にある2箇所の温泉施設にも導入が予定されているそうです。今までは産業廃棄物として処理されていた廃オガが、エネルギーとして利用されている、とても有意義な取り組みだと思いました。

府成小水力発電が発電を開始

23年10月27日、木製樋から落ちる用水の水が水車を回し小さな発電機により発電が始まりました。昨年4月から山梨県都留市や須坂市の先進地へ視察に出かけたり、鬼無里地区内の小水力発電の適地探しをしてきましたが、信州大学工学部の池田教授より府成も十分可能だとお墨付きを頂き、「府成地区小水力発電設置委員会」(室賀一郎会長)を結成して水車設置に取り組みました。10月19日、水車の設置作業が行われ始めてLED電球に小さな灯りが灯った時は、大変感激しました。翌日から会員で導水管の設置作業を行い、用水路に増水する事ができました。今はLEDライトのイルミネーションが府成地区の夜に輝いています。今回この事業が実施できたのは、「元を取ろうなんて言ったら何も出来ないぞ」と言ってくれた室賀会長をはじめ府成地区の皆さんの団結と実行力です。今後、ここで発電される電気を元に、木質バイオマスボイラーによる暖房や給湯、施設園芸の暖房などの利用につなげて行きたいと考えています。

2月イベント(他団体主催)※は申し込みが必要です

- 2/26(日)きなさ市 <みそ汁のふるまいあり>
2/26(日)※こんにやくづくり 参加費¥500 先着20名

会員数報告

正会員 40名 賛助 116名
特別 2名 合計 158名

後藤光正さん(鬼無里 十二平在住)より投稿いただきました。

「火と共に暮らす」

我が家の暖は全て薪です。母屋に2台、作業場に1台の薪ストーブが有り、また、囲炉裏もフル活用していますので、灯油のストーブは殆ど使用しません。当然ながら薪の使用量は随分と多く、従って年間を通して薪作りに膨大な時間と労力を費やしています。山里に暮らし、周りを森に囲まれているにも関わらず、毎年のことながら薪の調達に苦慮しています。

周りを見渡せば杉、カラマツ、雑木等が随分と成長し屋敷、田畑、道路へと日照の妨げになっています。冬季、木陰のこの箇所は特に路面が凍り解けず、又乾燥せず危険な状態となっています。

こうした問題に対して、生活環境へ不都合な樹木の伐採、間伐、下刈等を積極的に行い、森林保全をしながら、薪の調達を行ってはと思います。

薪を必要とする者は、森林保全に協力出来る者のグループを作り住みやすい里山の景観を取り戻し、伐採した樹木及び薪用に購入した木を必要とする者へ配分する。また、一般への販売をする。将来的には雇用の場となればと思います。

先日、そんな思いを持った数人で、来年の薪にするための樹を切り出しました。

薪ストーブは数万円から百万円台まで有りますが決して高額のものでなくても暖房には十分です。またストーブには様々な機能を有したタイプもあります。

伐採した後には桜、もみじ、ナラ等の落葉樹を植える本来の森林環境に戻すと共に、景観も回復する。

一方のこす樹、守る樹を大切にすることも大事な取り組み姿勢だと思っています。

この村で育った人達が鬼無里に戻り、もう一度住みたいと思えるような自然環境を作りたいものです。又多くの薪ストーブの愛好家が増えることにより、森林保全がさらに進みます。このような夢を勝手に見えています。

後藤さんありがとうございました。まめってえは、このような活動を積極的に応援したいと思います。